

「MOTアニュアル」は1999年に始まり、若手作家の作品を中心に現代美術の一面をとらえ、問いかけや議論のはじまりを引き出すグループ展のシリーズです。19回目を迎える本展では、アーティストの想像力や手仕事による「創造」と、近年、社会的に注目を集めるNFTや人工知能、人工生命、生命科学などのありようを反映するかのよう自動的に生まれる「生成」とのあいだを考察します。1990年代頃から一般にも広く認識されはじめたメディアアートやメディア芸術領域は今も拡張を続け、復元やアーカイブ化による再検証や歴史化の過渡期にあります。また、国際的な企画展やコンペティションに集まる作品群の中にも、ビッグデータやAI、機械学習によるもの、A-Life、群知能を思わせる作品が多数見られるようになりました。繊細な手仕事によって成立する作品も確実に存在する一方で、それらの根底にも、現在のな情報処理の概念が存在します。本展では、「創造と生成」の両方を見つめ、テクノロジーを用いながらも造形的な語彙によってアイデアを外在化し、私たちの想像力をこれまで以上に掻き立てようとする作家たちの多様な試みに着目し、11組の作家による約50点の作品・資料を展示します。2020年以降、プログラミング教育が普及し、次世代に向けて、表現のプラットフォームは変容が続いています。本展では、リアル展示に限らず、デジタル上に広がるメタバースや空間アーカイブなどを視野に入れた事業やイベントを展開します。本展の試みを通して、これまで対立的に捉えられがちであった「創造と生成」「アナログとデジタル」のありようを見直し、それらを超えて両者のあいだに生まれるシナジー(相乗効果)を見つめ、私たちの知覚の拡がりを問いかける場が生まれれば幸いです。

会期 | 12月2日(土)–2024年3月3日(日)

会場 | 東京都現代美術館 企画展示室 3Fほか

休館日 | 月曜日(1月8日、2月12日は開館)、12月28日–1月1日、1月9日、2月13日

開館時間 | 10:00–18:00(展示室入場は開館の30分前まで)

主催 | 公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館

共催 | CG-ARTS(公益財団法人画像情報教育振興協会)

助成 | 芸術文化振興基金

協力 | 日本テレビ放送網株式会社、  
パナソニック株式会社 デザイン本部 FUTURE LIFE FACTORY ほか

観覧料 | 一般 1,300円(1,040円)/大学生・専門学校生・65歳以上 900円(720円)  
/中高生 500円(400円)/小学生以下無料

※( )内は20名以上の団体料金 ※本展チケットでMOTコレクションもご覧いただけます。  
※身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方と、その付添いの方(2名まで)は無料です。 ※毎月第3水曜日(シルバーデー)は、65歳以上の方は年齢を証明できるものを提示していただくと無料になります。  
※家族ふれあいの日(毎月第3土曜日と翌日曜日)は、18歳未満のお子様をお連れの方の都内在住の保護者2名まで、観覧料が半額になります。(保護者の方は都内在住を証明できるものを提示)  
※オンラインチケット、同時開催展とのセット券もございます。

Closed | Mondays (except 8 Jan, 12 Feb), 28-31 Dec, 1 and 9 Jan, 13 Feb

Opening hours | 10 AM–6 PM (Tickets available until 30 minutes before closing.)

Organized by | Museum of Contemporary Art Tokyo operated by  
Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture

Co-organized by | Computer Graphic Arts Society (CG-ARTS)

Granted by | Japan Arts Fund

Cooperated by | NIPPON TV  
FUTURE LIFE FACTORY, Design Division, Panasonic Corporation  
and more

Admission | Adults: 1,300yen / University & college students, over 65: 900yen /  
High school & junior high school students: 500yen /  
Elementary school students and younger: free

\*20% discount for a group of over 20 people \*Ticket includes admission to the MOT Collection exhibition.

	清澄通り	三ツ目通り	大門通り
新大塚通り	半蔵門線清澄白河駅B2番出口 Exit B2 "Kiyosumi-shirakawa Sta." Hanzomon Line	都営新宿線菊川駅A4番出口 Exit A4 "Kikukawa Sta." Shinjuku Line	
清州橋通り	大江戸線清澄白河駅A3番出口 Exit A3 "Kiyosumi-shirakawa Sta." Deido Line 深川資料館通り 「東京都現代美術館前」バス停		
葛西橋通り	首都高「木場IC」出入口 門前仲町駅	MOT MUSEUM OF CONTEMPORARY ART 東京都現代美術館	木場公園
永代通り	首都高「枝川IC」出入口	東西線木場駅3番出口 Exit 3 "Kiba Sta." Tozai Line	



東京都現代美術館  
〒135-0022 東京都江東区三好4-1-1  
050-5541-8600 (ハローダイヤル)  
www.mot-art-museum.jp

Museum of Contemporary Art Tokyo  
4-1-1 Miyoshi, Koto-ku, Tokyo 135-0022  
+81-50-5541-8600 (Hello Dial / 9:00-20:00)

## イベント

XR領域とアートの協働、拡がる宇宙や量子など多様な関連プログラムを開催します。

### MOTアニュアル クロストーク

会期中、本展参加作家によるアーティストトークをシリーズ開催します。また、VR、AI、人工生命、宇宙人文社会科学や量子芸術など多様な領域の専門家を迎え、アートとの接点や今後の展望についてお聞きします。  
会場 | 講堂、参加費無料

### MOTアニュアル × VR文化フォーラム トーク

VR領域の研究者と本展参加アーティストが、発想の原点についてショーイングとトークを行い、移り変わり続ける同領域の研究と表現について、ディスカッションを通じてわかりやすく紹介します。  
日時 | 2月23日(金・祝) 13:00–16:00予定  
会場 | 講堂、参加費無料  
出演 | 後藤映則(アーティスト)、荒井美波(アーティスト)、山岡潤一(慶應義塾大学大学院専任講師)/草野絵美(アーティスト)、安藤英由樹(大阪芸術大学教授)、橋田朋子(早稲田大学教授)、当館学芸員

### MOTアニュアル × デヴィエーションゲーム

コンピュータ科学の父 A. チューリングの「イミテーションゲーム」にちなみ「デヴィエーション(逸脱)ゲーム」と名づけられた、AIと人間の相互進化のあり方を探求するプロジェクト。とあるお題の絵を、AIにはわからないが人間にはわかるように描くゲームを通して、模倣と逸脱を繰り返してきた技術と表現の歴史について考えます。  
出演 | Tomo Kihara + Playfool「デヴィエーションゲーム」ほか  
会場 | 講堂、参加費無料

### 関連事業 | MOTアニュアル extra

MOTアニュアル展開催中、変容しつづける表現のプラットフォームで展開している現在進行形の事業について、外部機関にご協力いただきながら紹介します。大学などの研究教育機関プロジェクトや、メタバースをテーマとしたアートアワードなど、多様なプロジェクトを紹介し、関連展示を行います。  
会期 | 12月9日(土)–2024年3月3日(日)  
※会期がMOTアニュアル2023展と異なります。  
会場 | 企画展示室地下2階アトリウム、ホワイエほか 入場無料  
紹介プロジェクト  
●「日テレイマジナリウムアワード」  
日本テレビ開局70年を記念して創設されたXR領域アワードの紹介展示(受賞作品、審査員作品)を行います。  
\*イマジナリウムとは…アーティスト山口勝弘が提唱した映像メディアの理想的境地です

●パナソニック株式会社 デザイン本部 FUTURE LIFE FACTORY「KOTOBATABI」みんなの言葉が雲になって浮かび、偶発的な発見を誘発するAR(拡張現実感)のインタラクティブツールを楽しく体験します。

●テクノロジーやサイエンス、アート領域を横断する各教育機関(東京大学、東京藝術大学、大阪芸術大学)による研究・作品・プロジェクトを紹介する展示を行います。

### 同時開催の展覧会

企画展「豊嶋康子 発生法—天地左右の裏表」12月9日(土)–2024年3月10日(日)  
コレクション展「MOTコレクション」12月2日(土)–2024年3月10日(日)

### Also on View

Yasuko Toyoshima: Origination Method Sat. 9 Dec, 2023 – Sun.10 Mar, 2024  
MOT Collection Sat. 2 Dec, 2023 – Sun.10 Mar, 2024

### 交通案内

東京メトロ半蔵門線「清澄白河駅」B2番出口より徒歩9分

都営地下鉄大江戸線「清澄白河駅」A3番出口より徒歩13分

東京メトロ東西線「木場駅」3番出口より徒歩15分、または都営バスで「東京都現代美術館前」下車  
都営地下鉄新宿線「菊川駅」A4番出口より徒歩15分、または都営バスで「東京都現代美術館前」下車

### Access information

-From Kiyosumi-shirakawa Station on the Hanzomon Line: 9min. walk from the B2 exit.  
-From Kiyosumi-shirakawa Station on the Toei Oedo Line: 13min. walk from the A3 exit.



展覧会  
ウェブサイト



Exhibition  
website

# MOT ANNUAL 2023

Synergies, or  
between creation  
and generation

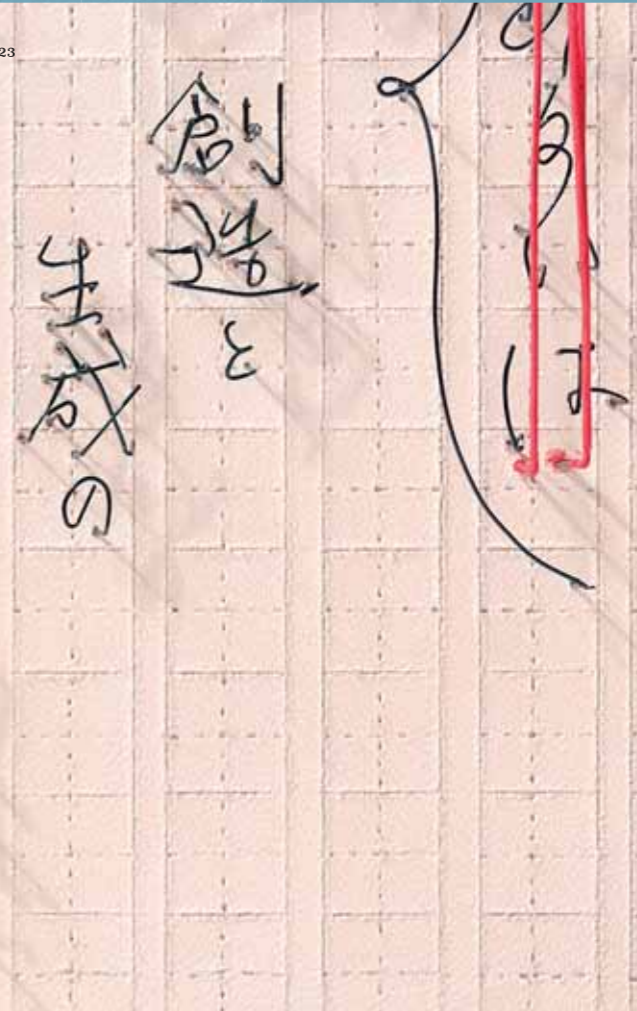
2023.12.2 SAT — 2024.3.3 SUN

荒井美波 | 後藤映則 | (euglena) | Unexistence Gallery (原田郁 / 平田尚也 / 藤倉麻子 / やんツー) | やんツー | 花形模 | 菅野創 + 加藤明洋 + 綿貫岳海 |  
Zombie Zoo Keeper | 石川将也 / 杉原寛 / 中路景暁 / キャンベル・アルジェンジオ /  
武井祥平 | 市原えつこ | 友沢こたお | 資料展示 ほか

Minami Arai | Akinori Goto | (euglena) | Unexistence Gallery (Iku Harada / Naoya Hirata / Asako Fujikura / yang02) | yang02 | Shin Hanagata | So Kanno + Akihiro Kato + Takemi Watanuki | Zombie Zoo Keeper | Masaya Ishikawa / Hiroshi Sugihara / Hiroaki Nakaji / Campbell Argenzio / Shohei Takei | Etsuko Ichihara | Kotao Tomozawa | and more

荒井美波《シナジー、あるいは創造と生成のあいだ》(部分)、2023年  
Minami Arai, *Synergies, or between creation and generation* (detail), 2023  
photo | 木奥恵三

MOT  
MUSEUM OF CONTEMPORARY ART  
OF  
東京都現代美術館



シナジー、創造と生成のあいだ



**後藤映則 | Akinori Goto**

1984年生まれ。原初的な映像メディアと現代のテクノロジーを往来し、動きや時間、目に見えない事象やフィジカルとデジタルの関係性に着目した作品群を発表する。3Dプリントとスリット光源によるオブジェや、コロナ禍を経て人々が向かう先を問いかける作品、昼と夜の光で変容する大型屋外彫刻を展示する。

**荒井美波 | Minami Arai**

1990年生まれ。デジタル技術の普及にともない「文字を書く」行為が変化したことから、行為の軌跡である直筆原稿に着目し、活字に置き換えられた文学者ら(太宰治、夏目漱石ほか)の直筆文字を、針金で書き順通りに立体化する作品を展開してきた。本展では、作家自身に内在するデジタルと手わざの往来を新作と併せて紹介する。

**(euglena)**

1993年生まれ。中華系タイ人とペルー生まれ日本人の両親のもと、日本に生まれ東京で活動する。「無垢に自身を再認識する」をコンセプトに、タンポポの綿毛で構築された、人工的な動力に拠らないインタラクティブ作品を制作し、心理学や身体をテーマとする作品も手がける。本展では、種子にならなかった綿毛を用いた近作を含め、テクノロジーのサイクルとは違う時間の流れを可視化し、内的な時間へと誘う。

**Unexistence Gallery (原田郁/平田尚也/藤倉麻子/やんツー)  
Unexistence Gallery: Iku Harada / Naoya Hirata / Asako Fujikura / yang02**

ネットワーク上に常時存在し、どこからでも鑑賞できる「Unexistence Gallery」への入口が、人々が作品と対峙する展示空間に出現する。異なるアプローチで「次元の往復」に取り組む作家たちが、実体を超越した「新しい実存」という多様な「意味の場」を呈示する。

**やんツー | yang02**

1984年生まれ。日々変容し続けるテクノロジーや社会状況をいち早く捉え、人間とテクノロジーの関係、身体性や表現の主体性の在りかについてを問い、人間の行為を情報技術が代替する自律型の装置などを作品として制作し、国内外で高い評価を得る。本展では「発電」に焦点を当てた新作シリーズとして、大型重力発電装置によるインスタレーションを展開する。

**花形模 | Shin Hanagata**

1995年生まれ。加速する資本主義社会においてテクノロジーによる新たな身体を模索し、自己と他者、人間と非人間の境界を往来しつつ、「私」ではなくなっていく、「人間」ではなくなっていく肉体についての実践やパフォーマンスを展開する。本展では身体にカメラとヘッドマウントディスプレイを装着して視覚の位置を転移させ、人の動きの再構築を試みる展示を行う。

**菅野創+加藤明洋+綿貫岳海 | So Kanno+Akihiro Kato+Takemi Watanuki**

新しい技術が社会においてどんな意味を持ちうるかをユーモラスに問いかけ、国内外で高く評価されたデジタル人工生命NFT ロボット《かぞくっち》(2022)に続き、本展では、一般家庭に最も浸透したロボット=掃除ロボットによるユニークな戦隊シリーズを通して、現代社会を見つめなおすストーリーを展開する。

**Zombie Zoo Keeper**

2012年生まれ。8歳の夏休みに、自由研究として母親とNFTアートプロジェクト「Zombie Zoo」(2021)を始動し、タブレットアプリを用いて「ゾンビ×動物」のドット絵を多数制作、まもなくアートコレクターに注目され、NFTアーティストとして世界的な話題を集める。ミュージックビデオやゲームへの国際的展開に加え、本展では新作を展示する。

**石川将也/杉原寛/中路景暁/キャンベル・アルジェンジオ/武井祥平**

Masaya Ishikawa / Hiroshi Sugihara / Hiroaki Nakaji / Campbell Argenzio / Shohei Takei 多様な領域で活躍する作り手たちが、コンペアに乗って近づくゲートをくぐって自在に動く3つの四角と、アニメーション上のみ見えるゲートに合わせて健気に動く1つの四角で構成された、CGやコマ撮りの動きを思わせる装置を実現した。本展では、見えない「ルール」の存在に気づかせ高く評価された作品《四角が行く》を、より空間的に展示する。

**市原えつこ | Etsuko Ichihara**

1988年生まれ。日本的な文化・習慣・信仰を独自の視点で読み解き、テクノロジーを用いて新しい切り口を提示し続ける。奇想天外な発想で広く楽しめる作品性と日本文化に対する独特のデザインから、国際的に受賞、注目され、政府プロジェクトにも参画する。本展では、ディストピア時代の美食を楽しむ新作を展開する。

**友沢こたお | Kotao Tomozawa**

1999年フランス・ポルドー生まれ。スライム状の物質と人形・人間という有機的なモチーフが絡み合う独特な質感を持つ油彩を描き、在学中より受賞多数、多くの個展・グループ展で高く評価される。宇川直宏との実験音楽ユニット結成など、アンダーグラウンドカルチャーを含む多様な領域を往来しつつ活動を展開、本展では油彩含め新作を発表する。2024年春、東京藝術大学大学院美術研究科卒業予定。

**資料展示 | 関連展示**

「創造と生成」にゆるやかにつながる活動を展開したアートコレクティブ(マヴォ | 実験工房 | ダムタイプほか)の資料や書籍、関連展示として落合陽一《銀口魚 再物化する波 I/II/III》(2022年)を展示する。

1	2	3	4
5	6	7	11
8	9	10	

※すべて参考図版

1. 後藤映則《Heading》2022 | 2. 荒井美波《太宰治『人間失格』》2012 photo: Sho Sato | 3. (euglena) watage20210101《aloof6》2021 | 4. Unexistence Gallery (原田郁 / 平田尚也 / 藤倉麻子 / やんツー)《新しい実存》2021- | 5. やんツー《TEFCO vol.1 ~重力発電の夜明け~》2023 photo: 萩原楽太郎 | 6. 花形模《still human》2021- | 7. 菅野創 + 加藤明洋 + 綿貫岳海《かぞくっち》2022 photo: 山口伊生人 | 8. Zombie Zoo Keeper《Zombie Zoo #0082 / #0123 / #0011 / #0007 / #0012 / #0059》2021©Fictionera | 9. 石川将也 / 杉原寛 / 中路景暁 / キャンベル・アルジェンジオ / 武井祥平《四角が行く》2021 photo: 飯本貴子 | 10. 市原えつこ《未来SUSHI》2022 photo: 黒羽政士 Courtesy of Mori Art Museum | 11. 友沢こたお《slime CXXXV》2022

※開催内容は都合により変更になる場合がございます。予めご了承ください。 ※詳細はウェブサイトをご覧ください。 \*All programs are subject to change. \*Details will be posted on the website.